

江戸時代から続く工芸品「べっ甲細工」を守る

～タイマイ養殖技術の開発～



業務推進部業務推進課 小林 真人

現在、存亡の危機に直面しているべっ甲細工を守るため、当研究所がこれまで取り組んできたタイマイ養殖の技術開発とその成果を紹介します。



写真1 サンゴ礁に生息するタイマイ

べっ甲細工とタイマイ

べっ甲細工は、ウミガメの仲間であるタイマイの甲羅を利用した日本の伝統的工芸品です。眼鏡やネックレスなど様々な装飾品があり、宝石と同様に高価なものとして珍重されています。その技法は6世紀頃に中国で発祥し、日本には江戸時代に長崎に伝来して作られるようになりました。日本でタイマイが生息する場所は主に南西諸島海域ですが、この海域ではべっ甲細工の原料となる大きなタイマイがあまりとれないため、その原料は輸入に頼ってきました。ところが、ワシントン条約によってタイマイの国際的な商取引が禁止されて平成4年限りで原料の輸入ができなくなり、べっ甲細工は存亡の危機に直面することとなりました。

べっ甲細工を守る取り組み

経済産業省は日本のべっ甲細工を守るため、日本べっ甲協会（以下、べっ甲協会）を設立しました。そして、この協会が中心となって平成4年から様々な取り組みを開始しました。その一つとして日本国内でタイマイを養殖して原料を確保するという対策があり、国内のいくつかの水族館や民間企業などが集結し、調査や研究を開始しました。当研究所は平成15年から石垣島にある亜熱帯研究センターでタイマイ養殖の技術開発に着手しました。

技術開発の成果

前述の取り組みが開始された当初、タイマイ養殖に関する情報は乏しく、日本の水族館が実施していた成熟した親ガメを使用した人工繁殖などの情報しかありませんでした。そこで、当研究所では未成熟のタイマイを成熟

させて産卵させる繁殖技術や養殖に適した仔ガメの飼育技術の開発に取り組みました。その結果、未成熟のタイマイが飼育水槽で成熟し、天然のタイマイと同様に産卵すること、また親ガメの養成方法を工夫することでふ化率が向上することなどを明らかにしました。さらに、生まれてきた仔ガメを用いて飼育実験を行い、養殖に必要な基礎的な飼育条件を明らかにしました。そして、これらの成果を「タイマイ養殖に関する技術集」としてまとめました。

タイマイ養殖の創出

平成24年からはタイマイ養殖技術の実用化に向けた実証試験、またタイマイ飼育員の育成も始まりました。これを受け、当研究所ではこれまでに開発したタイマイ養殖の技術を上述した飼育員に移転する取り組みを開始しました。そして、5年後の平成29年4月に石垣島に「石垣べっ甲株式会社」が設立され、ついにタイマイ養殖が開始されました。25年間にわたりべっ甲協会をはじめとした様々な機関が取り組んできた一つの対策が実を結び、また当研究所としても技術開発の成果がタイマイ養殖という新たな産業創出に貢献できたことは大変うれしいことです。今後タイマイ養殖が順調に進展し、べっ甲細工が日本の伝統的工芸品として継承されていくことを願います。



写真2 飼育水槽で交尾するタイマイ

発行：国立研究開発法人水産研究・教育機構

編集：国立研究開発法人水産研究・教育機構

西海区水産研究所

〒851-2213 長崎県長崎市多良良町1551-8

TEL 095-860-1600 FAX 095-850-7767

ホームページアドレス <http://snf.fra.affrc.go.jp>

本誌掲載の文章・画像等の無断転載を禁じます。